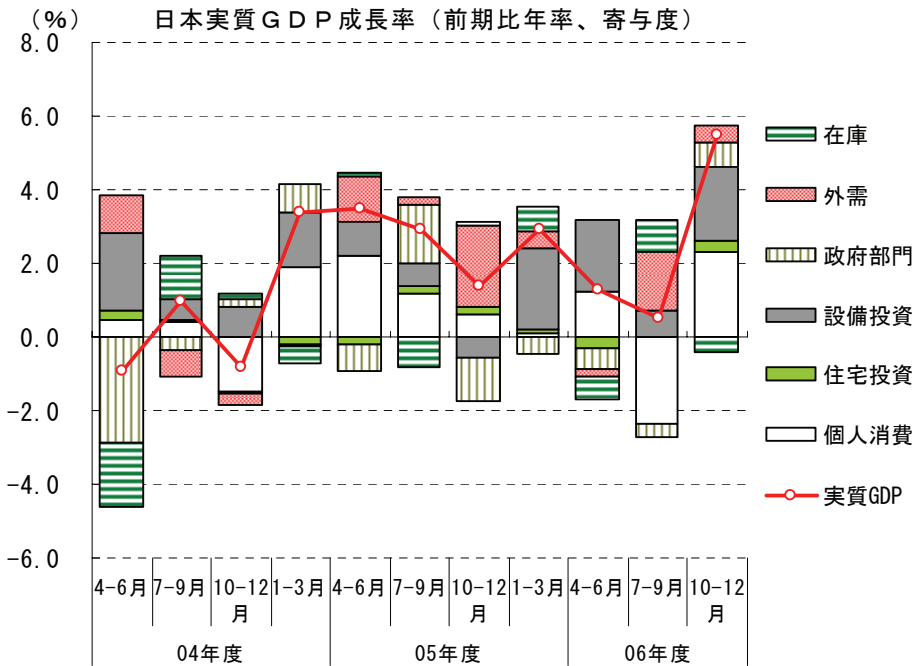


テーマ：2006年10-12月期GDP統計（2次速報） 発表日：2007年3月12日（月）  
 ～ 設備投資が上方修正。10-12月期の高成長を再確認 ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 副主任エコノミスト 新家 義貴  
 TEL:03-5221-4528



	(前期比、%)	
	2006年 10~12月期 1次速報	2006年 10~12月期 2次速報
実質GDP	1.2	1.3
前期比年率	4.8	5.5
内需寄与度	1.0	1.2
民間最終消費支出	1.1	1.0
民間住宅	2.0	2.2
民間企業設備	2.2	3.1
民間在庫品増加(寄与度)	▲0.1	▲0.1
政府最終消費支出	0.0	0.1
公的固定資本形成	2.7	3.7
外需寄与度	0.2	0.1
財貨・サービスの輸出	1.1	0.6
財貨・サービスの輸入	▲0.0	▲0.2
名目GDP	1.2	1.4
前期比年率	5.0	5.6
GDPデフレーター (前年比)	▲0.5	▲0.5

## ○ 設備投資はさらに上方修正

2006年10-12月期の実質GDP成長率（2次速報）は前期比+1.3%（前期比年率+5.5%）と、1次速報段階の前期比+1.2%（前期比年率+4.8%）から若干上方修正された。事前の市場予想（前期比+1.3%、同年率+5.1%）をやや上回ったが、予想の範囲内とあって差し支えない。

設備投資が前期比+3.1%と、1次速報段階の同+2.2%から上方修正されたことがGDP上方修正の最大の要因である。これは、法人企業統計季報で設備投資が高い伸びになったことを反映したものだ。設備投資は1次速報でも高い伸びだったが、2次速報でさらに上方修正されたことにより、設備投資の堅調さが改めて確認された。その他の需要項目では、輸出が前期比+0.6%と小幅下方修正（1次速報：同+1.1%）された結果、外需寄与度が+0.1%ポイントに下方修正（1次速報：同+0.2%ポイント）された一方、公共投資が前期比+3.7%に上方修正（1次速報：同+2.7%）された。また、民間在庫品増加については、GDPへの寄与度は変わらなかった。

本日のGDP 2次速報は、10-12月期の高成長を改めて確認させる結果だった。内需が前期比+1.2%（1次速報：同+1.0%）と上方修正されるなど内容も良好である。ただし、上方修正幅自体は小幅であり、景気の現状認識に変更を加えるものではなかった。

## ○ 1-3月期も底堅さを保つ可能性も

焦点は既に1-3月期の見通しに移っている。1月の個人消費関連統計は全般的に好調で、内閣府が試算

している消費総合指数も1月の値は10-12月期を大きく上回っている。これにより、1-3月期の個人消費も10-12月期の高い伸びの後にもかかわらず底堅さを示す可能性が出てきている。また、1月の輸出は旧正月による押し上げはあるにせよ高い伸びだった。一方、賃金の落ち込みが目立つことや、1月に続いて2月も鉱工業生産のマイナスが見込まれるなどの悪材料も存在し、足元の経済指標は強弱混在だ。2月分の消費や外需でどの程度の反動減が出るか、生産調整の深さはどの程度かなど、今月下旬に公表される2月分の主要統計には注目点が多い。

なお、第一生命経済研究所では、輸出の減速やIT部門の調整は限定的なものにとどまるとみられることに加え、設備投資を中心とする内需は今後も底堅く推移し、景気を下支えすると予想されることから、2007年前半に想定される景気減速はかなり軽微なものにとどまると判断している。1-3月期についても、2月の反動減をある程度見込んだとしても潜在成長率程度の成長は十分確保できると予想している。